







門 13  
冊 2019  
巻 5

風流志道新傳書云々  
 振平二抄現と申すは、濱州有友、那不、結屋、ま  
 一、海見、糸と、ま、海、大山、祇、命の、女、木、花、用、耶、媛、小  
 こそ、海、涉、間、の、社、と、申、す、は、ま、れ、は、神、は、異、物、さ、か、る  
 が、から、ま、る、ま、よ、り、不、二、山、我、さ、う、お、ま、の、用、之、る  
 り、忽、ち、海、し、め、さ、れ、れ、れ、は、あ、ま、の、渡、の、名、山、を、と、申、す  
 写、され、る、日本、の、社、あり、と、て、巻、摩、の、明、神、小、山、内  
 讀、ま、し、く、て、ま、あ、見、分、の、神、新、子、候、ま、て、修、場、八  
 幡、の、あ、社、へ、内、海、進、り、り、れ、れ、は、あ、時、不、法、を、へ、獨、神  
 ま、り、則、不、二、山、の、絶、頂、へ、八、百、五、拾、神、く、神、二、位

風流志道新傳書云々











女ありけ海の掬やかより流ある人あり船より  
 降くとも船中の女立出く破るる事候を申し  
 二重に事候をさし給へる者もまぬとある法あれ  
 ととたるうぬだくし海なるは是れ人の流ある  
 事もあはれは後船の漂きせし八丈のあまへと候は  
 み候く海邊ふまきくお後をわくしひ事候候  
 申せば海邊遊を候て百條人の庵人ども面々  
 事候候を候候候候候候候候候候候候候候候  
 者ども候候候候候候候候候候候候候候候候  
 ろあり候候候候候候候候候候候候候候候候

くふささうだけせげ玉の事より候人あり候  
 用ありし一而候人の者ども候人も候らふ竹葉ふ  
 事候城内へ連り候大勢の女立に圍候ふ候候候  
 ぬかきし一とくうり候とく候候候候候候候候  
 相候し候は候候候候候候候候候候候候候候候  
 の候し候候候候候候候候候候候候候候候候  
 申す候とあふ候候候候候候候候候候候候候候  
 何れもんと候候候候候候候候候候候候候候候  
 城外へ流かけ候男を返し候と候候候候候候候  
 城一ツ事候候候候候候候候候候候候候候候候











吹くそりそりあん改めはくそかた何事も  
 原をさびびくちまよりかうーさんちや下座人  
 河原へ返中り引りり毛すごむーりり形を振  
 子来ーけるう免角日本の以倍母の死不入たりとて  
 座人世をさびびくちまよりかうーさんちや下座人  
 形を振ひさきもさうらひ形のきさゆゆをさ  
 小はらりりかた中座を返りかきと怒海れはは  
 けたる女家格をさおしおし何事あ何事を  
 引りりさうらひ下座人さうらひ又とさ  
 付揚座入射の禿小目がらうさお織のきりもさ

けちくはかみうらけのハ文字押さけられぬ人  
 ぬかりけし用くさのかくさをもさかれハまーさ  
 りハ物初あり格男をささく格んとてささ  
 とささ合さ押ささらぬ女家初命も初ありさ  
 とあり世をささめさの目始約事ハはささ  
 不成てささささささささささささささ  
 さささささささささささささささささ  
 りハ神と先か初身の世界をささのみささ  
 沙さ進初め座人ささハ始の終ハ面白さ  
 さささささささささささささささささ



るも奇志れて女のしみけるがいはとあらうものもた  
 る娘もよくばおのほから秋風の身も志みさるぬの娘  
 涙も雪の涙もなほほとめはすあられぬ塔の空  
 とららもうらさく九丈ぬきとあつとんこと田の  
 娘らうとと遠い御理おせをかまハ寸の所中  
 らは泣いた娘泣いたらうくはぬるもあらうが  
 とらかぎずおければは年とをぬぬふるさまで  
 被おと後一とつくとつきのむら後相違りてそ  
 帯の意風ふさういさ百路人の控男とと西  
 方浄土くららがつすくおれをな生者必滅の

ちとらう人の命はさかあつてけいあ後のびとく  
 まういおむかりのことと併の教とけるふあん  
 玉中の女もさつかにあぬかあしめの泣くを  
 ちるうけおれとて末かけとらひ一ちをさして  
 りーあんでくら記より晴ふ建つおる夜の静い  
 ちのの静い返魂香くらぬれとてうくまを  
 るあれが通果さんとあなうださかおる流し道  
 はめりちけん娘をおおれは只一人生流けるおの  
 空を空流し道一人お同あつて舞ひくらぬ後  
 小は空を流しとめす絶小切と幾夜ととあらうおれと



骨令決こつふもやみけんかをこにこ親おおしくおりけ  
 りおしをおしきくおとお身おのとお親おおれおか  
 一人お生お跡おせおをお身お信おせおらおるおをおあおつお生おを  
 死おしおてお末おのお法おまおらおぬおるおありお目お以お西お向おり  
お色おをお事お中おありおておいおらおるお死おのおとお母お命お治お家  
 のお身お信おせおでお死おひお中おりおりおどおたお死お世おのお身お信  
おひおけおてお居お眠おおおからおあおまおとおまおくお風お身お人  
お忽お然おとおちおりお出お藤おのお枝おをおくおしお道おをお并おす  
お急おせおしお道お入お目おをおあおまおせお伏おりおをお結  
お人おあおりおけおらお人お世おの中おあおまおくお功お成お若

遊あそくあそぶあそうあそくあそばあそふあそかあそかあそかあそか  
 小こ志このこむこぐこてこくこ是このこ天このこ道こありこ凡こ凡こ凡こ凡こ凡  
 湖このこがこ池こ子こ房こ赤こ松こ子このこ托こてこ入こ進こ進この  
 時ときとときちちるち人に今いまのいま小こ教こをこあこまこるこのこもこ女にままいい中  
 里さとのさとるるたりたりとと物ものををああままるる時とき強つよてつよ功こうををままんんと  
 するするいいまま目め小こ池こととああまま似にたりたり海うみををままぐぐううののああままたり  
 とともも空そらのそら梅うめはは色いろ香かををああままるるくく志こころををああままるるくくから  
 ざざららががどど一ひと或あるいいままののああままるるくくとともも身み小こ麻あしのの社やしろ  
 ありありままのの揚あき梅うめ梅うめのの音ねんんととせせいいのの社やしろををああままるるくく  
 花はなををああままるるくくややかかのの勢いきほちちりりとともも身み信しん小こああままるるくく



川舟をすし急いそなるはさるりとする花はな方かた若わかきも  
 おとるべし一ひと層たから死しすとと穢けがははまぐさの目めのぬき  
 食たべあふりす速すみく世よをのかりべし但ただ山林さんの隠かくれ  
 をかき隠かくるといふはかきす大たい隠いんり市いちの中なかにありき  
 かからくる子こありす者ものトとかられいて隠かくれし詩  
 小こかられある隠かくれる方かた報ほうは世よを令さむつふのが家  
 我われ汝なん教くわうと世よの分ぶんの人ひと情じやう我われ志したるよとく世よは滑か  
 移うつるるままけよと教くわうし汝なん物ものふふれくんん初はつめめか  
 却かへて穢けがれあるる夜よくままるるべし人の浮う世よふふしる  
 古ふるくはは珠たま湯ゆふ入いがおとと穢けがれれかくしし穢けがれれをを

穢けがれと法はふ人ひとぬぬ小こあららげげがをををいいて穢けがれれをを  
 掛か湯ゆををいいて出でたるる時ときああままいいつつもも洗せん浄じやうををりりてて  
 せせててせせるるままららばば我われ例れい不ふ禮れい穢けがれれ穢けがれれをを何なにぞ  
 我われけけががささんんやや汚よご泥でいのの華はなをを穢けがれれるるにに涅ねすすれ  
 るるをを緇しままるるのの理りありありり志しかかるる世よの人ひとおおれれああるる  
 ららかかささるるががああるる我われ身み穢けがれれるるままちちのの家かをを破やぶれれ女  
 ねねひひ小こささららかかささるるががかりりととららかかららくくハハををか  
 ららずず何なにぞぞととああるる我われはは空くう何なにりり汝なんをを世よ界かい中ちゆうのの  
 我われ海うみののととめめぐぐりりとと結むすんんとと結むすらんん何なにぞぞのの玉  
 小こあありりててもも君きみ臣おん又また子こ又また女によはは身み友ともののみみたたるる



小石のりりちり一人の系ハカきりば壺塚の飛  
子君は有り鳥の及哺哺は之故小又子の礼儀  
り鶏卵をさげて嘘をき一猫の爪をさきおさ  
かりと又女の道なり氣を十夜鑿り余り足  
あり大蛇尾成つて集り疆寸を志りた海のか  
た毎もと望朋友の道なりさきバ古き一ち地のるを  
引らるる人々教ふとさきはさのり又あるは  
後先生論後其字宙第一の書とつたなりを  
のちふりりずやを論議の中ふまはさる時  
小石の壺にあり沽酒市脯からんはさる

戦後の壺に厨方の精断不決明海魚の  
学もあつて故に捨てるもあつたの破り  
肉を酒とけら先生をり一気をりた  
と子もあつたのほろもあつた又海を  
おれ首ひりてさきら物や猪と食ふ  
とさきもあつた薑を捨てるて食ふ  
のけんか合ぬと云ぐ又目出の礼あり  
蛙学者がめつと小石見負ふ  
日本が東夷と稱し一ち無き  
遠いないつ所舎の役をいひ











日本人に足せよのホー一 窮極までハ全知人をかたハ  
 とらけよ長足虫のふけり人なるまじりて去地の風  
 信あり天竺の右府合掌日本此小笠原を住らち  
 ハ留れよも礼とバ留れあり只聖人のすみか秘不  
 く普法ハ家内の人招ナよつて去くも終くも去り  
 小寺も棄棄願ドて信入一 經海の及ハ風俗を正  
 足さら成補志げ秘教を好くす時不降ハ夜有  
 度守招不撰一 砂子をひく室本よハ志がく一 細り  
 小迦世の先生遠細く秘教を秘す秘る經海の  
 才と信く信人を導くトかこをら痛たる事あり

そ信不なざればま改をまからばよハ聖人の教を  
 忘る聖人の道を信出ハ相撲五のめんご一 成  
 志く去信入をするがどし一 小浮世の只志学志策  
 の孔から天竺のぞた火吹竹を秘傳を秘やうを  
 備則と説出ー 毛力をも莫事終が殺難ハあるやハ  
 尻の方から二二寸程を出来合は聖人不成かり  
 ちれハ麒麟 鳳凰ハ星入のむけ扱でも出らるを  
 のも自負する者もせふ多し一 聖人の教てさ  
 こそ遠不ららかされし尻をり信者のよハ返さハ人  
 をばよハする多し一 すすてそおのりおおい



いるつむ時ふたふ家何り汝人情を知らんがため法玉と  
 めづるを内中を産出せし中ふ入友女の色不潔し  
 ゆゑお前を焼く難儀成り又人此樂に交結  
 不とあしと汝をくさひし女護が流へきしと  
 世男とあしらへ色慾のちぢたあく人の命成り  
 るあるの成目のちぢり不をを止め付只浮世と羞の  
 おとし汝をくさしとんがうかく法玉成りく内を  
 七十年の星を帯を纏りいさや汝不志めさん  
 とく鏡をぬき指むられは御浦清が昔ふはりらで  
 今すてみかりし汝進八十がかりの翁と妻しから

たより肉膚く老ハ皺のこころして領長く極長  
 とをぬけておのほから法神此世を何らハ一け  
 せはあふあがらも何れをてあたりをう流く  
 又らもハあふ優や老を不系系ゆえ老の赫灼  
 とか何れは繁や不系く流るもの何り極長く流  
 と進がたのふとせりたるを能くこれいふあては  
 ぬるお舞の形も一物もぞ有けるそ時仙人を  
 を含汝がもふ不持たるを若く清が難儀の時  
 清あゝの親世を牙留不立あふがぶくそ方汝護  
 が流るる大勢の庵人ともとつ度不飛千人命

風流志道千傳

卷五

十四















風流道車作

予卒業<sup>まは</sup>と<sup>と</sup>白<sup>は</sup>鳴<sup>な</sup>呼<sup>こ</sup>は法師<sup>はうし</sup>何<sup>なに</sup>人<sup>ひと</sup>が々<sup>が</sup>摩<sup>ま</sup>訶<sup>か</sup>  
加<sup>か</sup>葉<sup>は</sup>の拈<sup>ねん</sup>華<sup>げ</sup>我<sup>われ</sup>悟<sup>ご</sup>不<sup>ふ</sup>知<sup>ち</sup>人<sup>ひと</sup>の業<sup>やく</sup>山<sup>さん</sup>禪<sup>ぜん</sup>師<sup>し</sup>の山<sup>さん</sup>月<sup>げつ</sup>  
を<sup>を</sup>お<sup>お</sup>言<sup>い</sup>る<sup>る</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ん<sup>ん</sup>吾<sup>われ</sup>は<sup>は</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>も<sup>も</sup>不<sup>ふ</sup>知<sup>ち</sup>知<sup>ち</sup>事<sup>じ</sup>起<sup>おこ</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>誰<sup>たれ</sup>と<sup>と</sup>も  
ふ<sup>ふ</sup>せん<sup>ん</sup>強<sup>じやう</sup>子<sup>し</sup>笑<sup>わら</sup>々<sup>々</sup>未<sup>み</sup>不<sup>ふ</sup>善<sup>ぜん</sup>以<sup>も</sup>て<sup>て</sup>笑<sup>わら</sup>を<sup>を</sup>大<sup>だい</sup>方<sup>ほう</sup>  
五<sup>ご</sup>蔵<sup>ざう</sup>了<sup>りやう</sup>是<sup>ぜ</sup>望<sup>ぼう</sup>り<sup>り</sup>干<sup>かん</sup>時<sup>じ</sup>竟<sup>じやう</sup>曆<sup>りやく</sup>未<sup>み</sup>始<sup>し</sup>也<sup>や</sup>洛<sup>らく</sup>東<sup>とう</sup>又<sup>また</sup>  
ら<sup>ら</sup>ひ<sup>ひ</sup>の<sup>の</sup>岡<sup>おか</sup>志<sup>し</sup>い<sup>い</sup>身<sup>み</sup>干<sup>かん</sup>瓢<sup>ひょう</sup>子<sup>し</sup>筆<sup>ひつ</sup>以<sup>も</sup>精<sup>しやう</sup>進<sup>しん</sup>斎<sup>さい</sup>  
中<sup>ちゆう</sup>不<sup>ふ</sup>揉<sup>じゆう</sup>り



嗣出書

全五册

根南志<sup>こんなんし</sup>白<sup>はく</sup>佐<sup>さ</sup>後<sup>ご</sup>編<sup>へん</sup> 近<sup>きん</sup>刻<sup>こく</sup>

宝曆十三癸未霜月吉辰

江戸神田白壁町

書肆

日家町三丁目

岡本理兵衛

本屋又七



